

反改憲運動

通信 第7期

2011.11.2

No.

1部 200円
11

〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A
淡路町事務所気付 Tel. & Fax. : 03-3254-5460
E-Mail : han-kaiken-editor@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000円 (2011. 6~2012. 5)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

出て来い枝野! 再稼働を止める「人間の鎖」を再度完成させよう! 11・11たそがれの経産省キャンドル包囲「人間の鎖」アクションへ

10月28日、関西電力は大飯原発3号機の「ストレステスト」結果を原子力安全・保安院に提出した。保安院が「審査」を行い、原子力安全委員会が「確認」し、IAEA(国際原子力機関)の評価も経て、地元の同意を得たうえで、最終的には首相と3閣僚(官房長官、経産相、原発相)が再稼働を「政治判断」するという。

手続き云々以前に、そもそも原発の再稼働はあり得ない。巨大な鉄道事故が起こったとしよう。その原因はわからず、線路は壊れたまま、運転免許は失効したまま、それにも関わらず、事故を引き起こした運転士が再び列車を動かそうとしているのだ。そんなことがあり得るだろうか。誰がそんな危険な列車に乗るだろうか。

野田政権は、まるで事故などなかったかのように、原発維持・推進に向けた動きを始めている。原発輸出の推進、原発新增設の一部容認、そして再稼働。一方で、福島市渡利地区をはじめとする高濃度汚染地帯に、子どもたちを含む多くの人々を事実上閉じ込め、被曝を強いて恥じない。恐るべき棄民=殺人政策である。

そして、今なおこうしたあり得ない政策を取り仕切る最大の責任官庁は、経済産業省なのである。本来なら、経産省は解体されてしかるべきだろう。しかし、トップの首のすげ替えのみによって組織の延命をはかり、利権を生命と安全に優先させる政策をあくまで遂行しつつある。

未曾有の巨大事故を引き起こした責任者=犯罪人たちが逮捕され処罰されることなくのうのうと暮らす一方で、原発に「NO!」の声をあげてデモをする者たちが「人さらい」のように逮捕されている。こんなことが許されているはずがない。

責任追及と再発防止という当たり前のことが、平然とおろそかにされている。ならば、私たちは責任の所在をはっきりさせ、当然の政策を実行させるために圧力をかけなければい

けない。そんな思いがつながって、9・11経産省「人間の鎖」は成功した。そして今、経産省は絶えず人々の声にさらされている。9・11から若者たちによる10日間のハンストが取り組まれ、同じく9・11に経産省正門そば(敷地内!)にテントが開設、その後の増設を経て「経産省前テントひろば」へと発展した。10月27日から29日まで「福島の女たち」が、10月30日から11月5日まで「全国の女たち」による経産省前座り込みが敢行されている。

そして11月11日(金)には、今度は平日の経産省をキャンドルを掲げて、再度「人間の鎖」で包囲するアクションに取り組むことになった。私たちの力量からすれば、無謀な企てかもしれない。でも、今まで通りのやり方では止められないことも明らかだろう。再稼働反対を正面に掲げ、「自主」避難者への賠償など「避難の権利」の確立も要求する。今回は、経産省敷地1周900メートルを目指して鎖を延ばしていくイメージで、あらかじめ参加宣言も募集している(<http://nonukes.jp>)。加えて、12月11日にはより広い枠組みでのアクションを準備している。さらに、早ければ年明けにも具体化しかねない再稼働の動きに対しては、原発現地の取り組みとしっかりと連携しながら、経産省により深く対峙し、アクションを繰り出していくような構想を議論し始めている。

決して楽観はできないが、悲観すべき状況でもない。関西電力の原発が集中する福井県は、福島事故の検証なき再稼働への反対姿勢を崩していない。再稼働を止めて、遅くとも来年5月には全原発停止へと追い込もう。それは、「原発神話」の解体に何より説得力を発揮することは間違いない。「11・11」は、文字通りこの半年の勝負どころを疾走するスタートになるだろう。ぜひ多くの方の参加を。あなたの参加がなければ鎖はつながらない!

(杉原浩司/福島原発事故緊急会議、みどりの未来)

10月15日は「Occupy Tokyo」や「怒れる者たち」の国際連帯行動など、格差社会に抗議する直接行動が東京で複数行われた。これは、5月にスペインのマドリッド広場を占拠した社会運動「本当の民主主義を今すぐに!」の呼びかけに端を発し「ウォール街占拠」にも繋がる、世界40か国270都市を越える世界同時行動だった。▶日本の反貧困運動は、貧困の実相を告発し社会化する一方で、これが新自由主義による格差拡大

憲法運動

に伴うものであることについて、あまり(たぶん敢えて)強調してこなかった。今回の行動はそれを乗り越え、闘いの対象を明確に見据えたものだった。▶ただ、そこで盛んに使われたフレーズ「われわれは99%だ」は、少数者の運動を長く行ってきた僕には違和感がある。自分たちの共通性を認識し団結を呼びかけるのはよいが、マジョリティの優先を要求するものであってはならないだろう。(なすび)

高遠菜穂子さんのお話の会へのお誘い

3月の事故直後、高遠さんが福島への支援に入ったことを知り、彼女の行動力に感動しました。今も、福島とイラクに交互に出かけて支援し続けておられます。北海道にお住まいで、しかも多忙な高遠さんのお話を聞けるまたとない機会を逃しませんよう、ご案内します。

チラシには、高遠さんの次のことばを載せました。

「大義なき攻撃でイラクにもたらされた破壊と死。残された人々はこれまでにないほどの苦境におかれている。この遠い国の惨劇が、こんなにも密接に私たちの生活と結びついている。そして、3.11後、イラクと日本はあらためて『内部被ばく』という共通点を持った。私たち日本人は何をすべきなのか。現場から見えるイラクと日本の姿を報告します。」

原発と基地の問題の共通点は、地方差別です。

長期間にわたり、日本の安全保障政策（基地依存）とエネルギー政策（原発依存）という2つの大きな国策が進められてきました。いつも私の頭にあるのは、都市にすむ私たちの「安全」で「豊か」な生活は、地方に犠牲を押し付け、地方を差別してきた結果だということです。旧科技庁などとの交渉の中で、私は「六ヶ所村に自分の家族とともに住んで考えてみて！」と何度も詰め寄ったことがありました。

しかし私たちの安全は、外からの核攻撃に脅かされたものではありませんでした。私たちの国の核利用政策が、私たちのふるさとを破壊し、汚染してしまいました。

あれから7ヶ月が経ち、原発を再稼働させる動きが加速しようとしています。それに加担している世論に、どう動きか

けられるでしょうか。

半世紀もの間、とてつもない力ネを使って、都市の人々は洗脳され、地方はメタメタにされてきました。私の郷里で、「下北半島・むつ市は原子力と自衛隊の街になってしまった」と言った叔父のことばが胸に突き刺さります。現地の過酷な状況を自分の事として感じるよう、現地のナマの状況を知らせ続けなければ、と思います。都市に住む私たちは、加害者だという自覚が必要です。

現地の自治体からも、原発依存から脱けだしたいという声が上がりに始めています。3月の事故後、緊急署名を始めた私たちは、今まで原発のことを考えたことも無かったたくさんの人たちに出会いました。

余談ですが、10月23日、立川自衛隊基地の防災航空祭を「見学」しました。開館前20以上も前から並んで待つリピーターたち。幼児・子供連れの若夫婦が殆ど。なんと大人たちが楽しそうにはしゃいでいたこと！どのように若者が自衛隊に惹かれていくのか、考えてみる必要を感じています。

（古荘斗糸子／うちなんちゅの怒りとともに！三多摩市民の会）

命に国境はない～福島とイラクの今を語る～

日 時：11月12日（土）18：30～

お 話：高遠 菜穂子 さん

場 所：三鷹市市民協働センター（JR三鷹駅南口徒歩約15分）
TEL：0422-46-0048）

参加費：800円

ウラン兵器禁止を求める国際行動デー 福島原発の放射能と劣化ウランのヒバクシャ

11月13日（日）午後恒例の放射能兵器＝ウラン兵器の禁止を求める国際行動デーが開かれます。たんぽぽ舎など11団体と個人でつくる劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワークは「豊田直巳さんの見たフクシマとイラク！―原発の放射能と劣化ウランのヒバクシャ―」と、山崎久隆さんの講演2つを柱に集会を開催します。多くの参加を期待します。

豊田直巳さん（フォトジャーナリスト）は、3・11直後から、現地避難区域を何回も密着取材し、原発震災下の映像で生々しい実態を話してくれます。また山崎久隆さん（たんぽぽ舎・劣化ウラン研究会代表）は「イラク・フクシマと低線量被曝の脅威」と題したお話をします。

- ・放射能兵器劣化ウラン弾は、原子力産業の廃棄物（劣化ウラン）から作られます。原子力発電をやめれば、その根元を断てば、劣化ウラン弾を含む各種の劣化ウラン弾兵器は、ざんじ材料が枯渇し作れなくなります。廃炉への展望が出ます。
- ・劣化ウラン兵器の禁止！イラクの子どもたちに医療支援を！

この2つのテーマに多くの賛同団体と個人で、04年に3月に「劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク」は結成され、現在までさまざまな活動をしてきました。結成直後に、イラク

で拘束された今井さん（劣化ウラン廃絶キャンペーンの仲間）、高遠さん、郡山さんたちの救出のために、アメリカ大使館への抗議、集会、カンパ等の活動が最初のものとなりました。

イラク・サマワから帰国した自衛隊員の劣化ウラン被曝問題で、防衛省、外務省交渉をしました。また、04～10年と毎年広島（長崎）原水爆禁止集会、劣化ウラン分科会での交流・宣伝活動を09、10年は祝島現地と交流しました。

原子力文化振興財団が劣化ウランについて誤った認識（故意？）でプレスリリースをしたことについて、抗議と質問書のやり取りの中で糾弾しました。

06年8月にイスラエルのレバノン攻撃に対して、抗議と集会とカンパを行いました。劣化ウラン兵器禁止を求める国際行動デーの集会も毎年行い、今年で8年（8回）目となりました。

これらの活動状況、劣化ウランについての最新の情報・資料等について。月刊ニュースとして発行しています。読者の方々からの投稿も歓迎です。現在80号まで。ご自宅へ直接お送りします。購読料（1年分）個人3,000円 団体6,000円 医療支援カンパ 1口1,000円

（劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク）

『普天間基地は県外へ』 政府は沖縄県民の声を聞け 11・24 集会 オスプレイ配備・高江ヘリパッド建設反対

辺野古への基地建設を許さない実行委員会が11月24日(木)夜18時半から文京区民センターで、島田善次さん(普天間爆音訴訟原告団長)を迎えて集会を開催します(資料代500円)。是非ご参加願います。

辺野古への新しい米軍基地建設阻止の闘いは、2004年から既に2600日以上座り込みを継続している。ボーリング調査阻止闘争、海中でのアセス調査阻止闘争などの粘り強い闘いを経て、今や仲井真県知事さえ「基地は県外へ」と政府に要求している。基地はもうこれ以上いらない、我慢できないという強い怒りが、県民の総意として「基地は県外へ」という声となって吹き出している。

一方、新型垂直離着陸機MV22オスプレイが、来年から普天間基地に配備されようとしている。オスプレイは、未亡人製造機と呼ばれるほど何回も墜落・死亡事故を起こした極めて危険な航空機で、防衛官僚が米国政府に配備計画を隠すように依頼していたほど(密約)。

どこにも基地はいらない、沖縄に基地をこれ以上押しつけるな。「本土」日本人は、県民の総意である「基地は県外へ」という声を沖縄の人々と共に日本政府に訴えよう。日本政府に対して、沖縄を説得するのではなく米政府を説得するように訴えよう。

米軍基地と原発とはよく似ている。どちらも国が自治体に押しつけ、補助金漬けにし、他の仕事を奪って無いと困る状態をつくり、都市が過疎地を支配する。米軍基地は日本の防

衛のためと称しているが実は米国侵略戦争支援が目的で、原発は安定した電気供給のためと称しているが実は核兵器技術の保持が目的。基地は周辺に騒音、水質汚濁、土壌汚染などの環境破壊をもたらし、原発は放射能汚染、温排水などの環境破壊とともに使用済み核燃料を末代に残す。基地は米兵犯罪で住民に被害と不安を与え、原発は被曝労働で人の健康を害し常に放射能の不安を住民に与える。大事なことは、どちらも米国の圧力で日本に押しつけられ、日本の支配層が受け入れた。そして、基地にかかわる数多くの密約と原発にかかわる安全神話と汚染・被曝隠しが示すように、どちらも日米政府が民衆を騙して成り立っている。それでも、沖縄の基地は占領中に米国と日本が押しつけたものであり、原発は仮にも地域の区長が受け入れて導入されたのでここが違う。

福島原発事故が原発の安全神話をふっ飛ばし脱原発の可能性が出てきたが、同様に普天間基地の辺野古移設は、少女暴行事件やヘリの墜落事故を経て15年間進まず、日米政府議会も種々の意見が出て、かつ日米とも予算が厳しく、未だに移設の目処が立っていない。そう、どちらも(珍しく)我々が勝つ可能性がある闘いである。普天間移設に関して言えば、政府に辺野古基地建設にかかわるアセス評価書を年内に出させないことが大事です。是非11・24集会に結集してください。そして集会決議を防衛省に提出しましょう。何としても、辺野古基地建設を阻止しましょう。

(木村雅夫／反安保実行委員会)

報告・衆参憲法審査会委員選出に抗議し10・20院内集会

10月20日、第179臨時国会が始まった。冒頭の衆参両院本会議で、憲法審査会の委員選出が行われた。2007年に改憲手続き法が成立したが、さまざまの付帯条項つきのものであり施行は3年後ということになっていた。しかし付帯条項に書かれた有権者の年齢下限(現行通り20歳のままか18歳に下げかなど)の検討も全くなされないまま昨年5月には施行されることになった。だが民主党政権の下で参院での憲法審査会(改憲案の審議を行う常設機関)の委員選出も行われないまま、審査会は4年以上にわたって始動することはなかった。ここには憲法9条改悪のねらいに対する多くの人のびとの反対運動の力が反映していた。

野田首相は民主党内でも旗幟鮮明な改憲論者である。しかし彼は9月の第178臨時国会では「震災復興など喫緊の課題が山積み、憲法改正が優先課題とは考えていない」と答弁していたのである。しかし今国会の冒頭に憲法審査会委員選出を強行したのは、「第3次補正予算案」を中心にした国会での法案審議をスムーズに運営する上で自民・公明両党の協力を取り付けるための政局的配慮によるものだろう。

しかしもちろんそれだけではない。「大連立」をめざす野田は、明らかに原発推進と改憲のための「大連合」を自民・公明両党との間で作り上げることを目標にしている。民主党の政調会長となった前原誠司は9月臨時国会での野田首相所信表明演説以前に、訪米中の講演で「武器輸出3原則見直し」「PKO武器使用基準の緩和」などの意向を明らかにした。こ

れは明文改憲の立場を米国の政策当局者に印象づける意図を持っていた。そして実際、野田政権は国連総会出席後、南スーダンへの自衛隊PKO派兵を決定したのである。

10月20日に選出された衆参両院の憲法審査会は、衆院が大畠章宏(民主党、日立の原発技術者出身)を会長に幹事10人(民主7人、自民2人、公明1人)、委員が全体で50人、参院は小坂憲次(自民)を会長に幹事10人(自民・民主各4人、公明・みんな各1人)、委員総数45人で構成されている。共産・社民両党は委員の選出に反対したが、審査会には委員を送り込んだ。

10月20日「2012年5・3憲法集会実行委員会」は、国会会期の開始日に毎回行っている院内集会を衆院第1議員会館で開催した。集会のタイトルは「憲法審査会を始動させるな、憲法を震災復興に生かせ!」。サブスローガンは原発、沖縄米軍基地、自衛隊の南スーダン派兵、比例定数削減、増税、TPPと多岐にわたった。

「憲法を愛する女性ネット」の山口喜久子さん(社民党豊島区議)の司会で始まった集会は共産党の市田忠義書記局長、社民党の福島みずほ党首をはじめ共産党(紙智子、笠井亮、赤嶺政賢、井上哲士)、社民党(服部良一、吉田忠智)の各議員が参加し、改憲プロセス始動を許さないことや、原発・基地・増税問題などで野田政権の動きを厳しく批判した。

(国富建治／事務局)

報告◆「怒れる者たち」の世界同時行動

10月15日、「怒れる者たち」の世界同時行動が、世界950都市、1400カ所(報道によって数字は異なる)で闘われ、東京では、日比谷、六本木、新宿で、集会やデモが取り組まれた。新宿の柏木公園では、「怒れる者たち」の国際連帯行動実行委による呼びかけに、予想を超える300人が集まった。

この行動、もともとは今年5月に始まる。「本当の民主主義を今すぐに!」を掲げ、貧困、失業、新自由主義グローバリズムとの闘いを、スペインのマドリッド広場を占拠しながら訴えてきた社会運動のネットワークが、10月15日を世界の「怒れる者たち」が同時に立ち上がろうと発信したのだが、メディアの多くは、ニューヨーク「ウォール街占拠」運動が世界に呼びかけたと伝えた。実際ウォール街から全米に広がったこの運動の波及力もあって、いつの間にか反格差世界行動というように名づけられたようだ。イラク反戦運動が高まった2003年の頃は、世界同時の反戦行動もあったが、今回はやはり、チュニジア、エジプトに始まる草の根大衆運動が世界的に広まり、国境を越えて共振し始めていることを、示している。

新宿の集会は、「持たざる者」の国際連帯行動が準備して進めていたが、「ウォール街占拠」で10月15日は直前になって日本でも突然注目されるようになった。柏木公園には、六本木の集会(こちらはデモなし)に参加した人も多く流れてきて、報道も我々が呼びかけた取り組みとしてはかつてない数

で、取材も殺到(もっとも翌日のメディアは、新宿を無視したところが多かった)。集会は、「持たざる者」～、渋谷のじれん、園良太君、原発緊急会議などから発言があった。

デモは、「格差社会を強制終了! 生きる権利を再起動!」と大書されたバナーを先頭に、思い思いのプラカードや旗も賑やかに、初めて見る顔も多く、本当に多様な人たち、特に個人で参加した人たちが、街頭で生き生きとアピールする姿に圧倒させられた。デモコースは、新宿西口ロータリーを回って、大ガードをくぐり、靖国通りから区役所通り、職安通り、そして公園へとかなり長い行程であったが、沿道の注目度は高く、途中からデモに合流する人も結構いる。この間、とりわけ新宿のデモで弾圧を繰り返す警察は、警告・恫喝しながらのハードな規制で臨んできたが、デモの気迫とカメラの多さもあってか、弾圧はできなかった。

10・15は、さまざまな意味で新しい境地と可能性に満ちた大衆行動だったといえる。

この間、反(脱)原発以外の政治課題がもう一つ活性化しない状況ではあったが、「怒れる者たち」の怒りは、あらゆるテーマをつなぐものでもあるし、スローガンに掲げた「デモと広場の自由を」は、日本の運動にとって切実なテーマだ。今後も追求してゆきたい。

(藤田五郎／「持たざる者」の国際連帯行動)

◆原発を 読む◆『福島原発事故をめぐって——いくつか学び考えたこと』 山本義隆 著 みすず書房／1000円+税

今もなお放射性物質を放出し続け、放射能の恐怖を拡大し続けている、東京電力福島第一原発1～4号機の大事故。これをめぐって私たちが考えなければならない大切な問題をシャープに提起しているのが本書である。語り口はすこぶる平明。

著者が提起している問題は、大きく分ければ三点である。第一は、日本の原発開発は、アメリカが展開した原子力の「平和利用」という欺瞞的な言葉のベールをかぶせて、核兵器をつくりだすためにこそ推進されてきたという、表の歴史からは隠されてきた事実をハッキリと見据えるべきだという問題である。著者はそれがスタートした時点(岸信介政権の時代)を具体的に分析することで、誰の眼にも明らかで、それを示している。

「端的に、日本における原子力開発、原子炉建設は、戦後のパワー・ポリティックスから生まれたのであった。岸にとって『平和利用』のお題目は、鎧のうえに羽織った衣であった」。

この事実を示しながら、さからえないアメリカに日本の核武装はストップされた結果の選択として、「潜在的核兵器保有国」の状態をつくりだし、将来的な「武装」の可能性を保障していくための「国策」として原発(核燃料リサイクルづくり)が推進され続けてきた事実を、さらに、その「潜在的な能力」だけで「国際的発言力」(抑止力)を高めるといった支配者の判断が存在し続けているという事実をもキチンと示しているのだ。

第二は、「原発は安全」という神話を、科学と実用化された技術そのものの有限性(放射能はストップできない)という点からも、事故等なくても被曝労働者抜きで原発は動かないという隠され続けてきた労働の実態の方からも、様々な具体的事例を組み立てて示すことで、コナゴナに打ちくだいてみせている。こども説得的である。

第三は、国家・産業界・専門科学者・マスコミが総掛かりで流布させてきた科学性善説、そのパラダイムが、どのような過去の歴史をくぐってつくりだされてきたかが、著者の科学の理論史に関する豊富な知識がフルに動員されて提示され、それが明瞭に相対化される。

一つ一つの論点は、著者がはじめて発見したものではない。特に第二の点などは反原発運動が大量に明らかにしてきた事実群である(著者もそれを十分に活用している)。

しかし、この三点がまとめて、これほど簡潔かつわかりやすく提示されたものにお目にかかったのは、私ははじめてだ。この三点が重層化されることで、政・官・財一体となった〈原発ファシズム〉は廃止する以外の道はありえないという本書の結論は、私の胸にあらためてストンと落ちた。

脱原発の声をあげている人にはもちろん、その声をあげることに逡巡している人にもこそ、広く読んでもらいたい本である。

(天野恵一／事務局)

反改憲ニュースクリップ

2011年10月16日～10月29日

憲法調査会、始動

【10月17日】〈辺野古〉一川保夫防衛相が沖縄県の仲井真弘多知事と県庁で会談し、米軍普天間飛行場を名護市辺野古に移設するための環境影響評価書を、年内に県に提出する方針を伝えた。〈在日無年金訴訟〉外国籍を理由に老齢年金を受給できないのは、法の下での平等を定める憲法に反するとして、福岡県内の在日朝鮮人とその遺族計9人が国に1人あたり1500万円の慰謝料を求めた裁判の控訴審で、福岡高裁は原告敗訴の判決。森野俊彦裁判長は「在日コリアンは歴史的経緯から一般外国人とは異なる特段の配慮は必要だが自国民と同一の社会保障を与える法的義務はない」と述べた。

【10月18日】〈原発輸出〉国際エネルギー機関（IEA）の閣僚理事会に出席した枝野幸男経産相が、「原子力の安全性を世界最高水準まで高めるとともに、事故の経験と教訓を世界と共有し、国際的な原子力の安全向上に貢献する」と発言。

【10月19日】〈辺野古〉玄葉光一郎外相が名護市役所を訪れ、稲嶺進市長と会談した。外相は辺野古移設への協力を要請したが、市長は県内移設の断念を改めて求め、議論は平行線に終わった。〈遺族年金の男女差別〉地方公務員の遺族補償年金の受給資格で男性にだけ年齢制限が設けられているのは法の下での平等を定めた憲法に違反するとして、堺市の男性が地方公務員災害補償基金による年金不支給決定の取り消しを求める行政訴訟を大阪地裁に起こした。妻の死亡当時、男性が51歳だったため、受給資格がある60歳に達していないとして不支給決定が下されていた。男性側は、国内の年金制度の多くで受給資格要件に男女差があるのは「女性は家庭で家事に励む」という古い男女観に基づいたものだ」と指摘している。

【10月20日】〈憲法審査会〉衆参両院の憲法審査会の委員が初めて選任された。社民党は委員名簿の提出を拒否。

【10月21日】〈憲法審査会〉衆院憲法審査会が民主党の大畠章宏前国土交通相を、参院憲法審査会が自民党の小坂憲次前参院幹事長をそれぞれ会長に選んだ。小坂は「最初は国民に『審査会の議論が始まった』と思ってもらうために頻繁に会合を開きたい」と述べた。委員名簿の提出を拒否していた社民党は名簿提出に応じた。民主党の羽田雄一郎参院国会対策委員長はこの日の記者会見で、「『18歳参政権』などをまとめるのが最初だ」と述べた。

【10月22日】〈辺野古〉斎藤勤官房副長官が沖縄県を訪れて仲井真弘多知事らと会談した。知事は普天間基地の県外移設を改めて要求した。斎藤は会談後、「（閣僚らが）単純に来たから沖縄の理解が得られる、ということではない。大変厳しい状況だ」との認識を示した。

【10月25日】〈日米防衛相会談〉一川保夫防衛相が初来日したパネッタ米国防長官と防衛省で会談した。長官は普天間基地移設の「進展」を強く求め、防衛相との共同記者会見で「真の進捗を日本の行動を通してはっきり見ることができる」と発言。〈PKO〉民主党が内閣・外交・防衛合同部門会議で、年内をめどにPKO法改正の基本的考えをまとめることを決めた。〈原発輸出〉ベトナムのグエン・スアン・フック副首相が、毎日新聞とのインタビューで、ベトナム南部ニントゥアン省に日本の技術で計画している原子力発電所2基の建設について、日本側との政府間合意を締結する方針を初めて明らかにした。〈混合診療〉保険診療と保険外診療（自由診療）を併用する「混合診療」を原則禁止している国の政策が適法かどうかで争われた訴訟で、最高裁第3小法廷が、生存権などを定めた憲法には反しないとの判決を下した。原告は、腎臓がん治療のため保険診療と自由診療を併用していたが、病院側から「全額が自己負担になる」と言われ併用を断念、保険を受ける権利の確認を求めて提訴していた。

【10月27日】〈辺野古〉野田佳彦首相が沖縄県の仲井真弘多知事と首相官邸で会談した。仲井真知事は、普天間基地の県外移設を求める要請書を提出。他方首相は、辺野古移設に向けた環境影響評価書を年内に県に提出する方針を改めて伝えた。他方、移設容認派の島袋吉和前名護市長らが自民党本部を訪れ、谷垣総裁と面会。26日の決起集会で採択した辺野古移設と振興策拡充を求める要請書を手渡した。谷垣は「党としてもしっかりとサポートする」と応じた。〈国家緊急権〉長島昭久首相補佐官が、都内で開かれたシンポジウムで、大規模災害などの際に超法規的措置を取る権限を政府に与えるため、憲法を改正し「『国家緊急権』のような条文を入れることも一つのアイデアだ」と発言。

【10月28日】〈辺野古〉藤村修官房長官が、普天間基地移設をめぐる、沖縄県知事が持っている海面埋め立ての許可権限を国に移す特別措置法の制定について「将来においても念頭にない」と否定した。〈日米軍事演習〉米海軍と海上自衛隊の「日米共同演習」が鹿児島県沖で開始。南西シフトを掲げた昨年の「防衛計画の大綱」改定後、南西海域で実施される初の共同訓練となる。〈F15事故〉航空自衛隊小松基地に所属するF15戦闘機のタンク落下事故で、同基地側が、石川県や小松市など地元自治体に対し、F15と、事故後に独自で自衛隊中のT4練習機の訓練再開を求めた。しかし、地元は「再開より原因究明が先だ」として、反発した。〈政治倫理条例〉市議会議員の2親等以内の親族の会社と市との契約を制限する広島県府中市の議員政治倫理条例について、元市議が精神的苦痛を受けたとして市に損害賠償を求めた訴訟の控訴審判決で、広島高裁が「憲法が保障する経済活動の自由や議員活動の自由を制限する合理性や必要性はなく、違憲」との判決。

【10月29日】〈原発輸出〉玄葉光一郎外相がインドのクリシュナ外相と東京で戦略対話を行い、日印原子力協定の締結に向けた交渉の加速で一致。また、海上自衛隊とインド海軍の2国間演習の実施など、安全保障分野での連携を強化することでも合意した。

私も一言 140

畑の ひろし

高齢化社会の「運動」

えらい事になった。昔、僕は友人が「運動」をすると、お金は出した、つまりカンパをしたのだ。だが口を挟んだことはない、そんな小難しいことはしないのがとりえなのだ。お金の力は強大で、カンパしていれば一応それで済んだから、それが一番楽だった。その結果、世の中の全ての問題について知ることができるほど機関紙がたくさん来た、一応読めるときは読んでいたけれど、それほど全部は読めない、完全に消化不良なのだ。

歳をとって年金生活になり金が無いからケチになったカン

パも出来ない。軽率に年金額を口にしたら、そんなに貰っているなら……と、やはり「運動」も年金生活に入っているんだ。

高齢化社会の「運動」は今後、どんなスタイルをとって運営されて行くのだろう、自分が住む地域はいわゆるニュータウンで高齢化は進んでいる。近隣商店街のスーパーで高齢者のヨロヨロ歩きを見ることは多いし、僕もその一人である「精神障害」の入り口に入っちゃった人も良く見かける。社会も「運動」も高齢化している、よく判らないけれど心配ではある。

成り行きで「反改憲運動通信」に文章を書くことになってしまった……待ってくれよ、僕はこの40年間ほど、憲法について考えたことなど無い。憲法を読んだことは多分あると思うかなり大昔だ、そんな大昔に考えたことだけれど、憲法は早急に改正して天皇制の廃止とか現実にはちっともそうでない「非武装中立」理念の欺瞞を解消するべきだと思ったのだから、僕にとって「憲法改正は正しいこと」なのだ、護憲は無理、あーあ言っちゃった。今、憲法を改正しようとなると、必ず賛成できない改正案が提案されてそれが実現してしまう、そんな政治情勢だから反改憲と言うのかな、本当は皆どう思っているのだろう。

集会・行動情報 11/5 ~ 11/20

▶ 11/5 (土) みんなでやり返そう! 9・23弾圧と相次ぐデモ規制・不当逮捕を許さない◆ 17:30 開場◆ スペースたんぼぼ (JR 総武線水道橋駅下車) / 「差別・排外主義に NO! 9・23 行動」 救援会

■ レインボー・アクション 第4回主催イベント 差別発言を許す社会を問い直す〜石原都知事による差別発言のその後とこれから〜◆ 19:00◆ 出演: 辛淑玉、野崎光枝・増原裕子◆ 1000 円◆ なかの ZERO 小ホール (JT 中央線中野駅南口下車)◆ レインボー・アクション 内石原都知事の同性愛者差別発言抗議プロジェクト

■ 避難の権利集会 in 東京〜「自主的」避難へ賠償を〜◆ 13:30◆ 資料代: 500 円◆ 文京区民センター 3A 会議室 (都営地下鉄春日駅下車)◆ 福島老朽原発を考える会、FoE Japan、プルトニウムなんていないよ! 東京

▶ 11/6 (日) 〜もうアッタマにきた!〜ふざけんな東電! 11・6 デモ 今すぐ止めよう! 柏崎刈羽原発 許さない! 労働者使い捨て・料金値上げ◆ 13:00 集合、14:00 デモ出発◆ 常盤橋公園 (JR 東京駅下車)◆ 呼びかけ: 東電前アクション

■ 三里塚・東峰 芋掘り&収穫祭ツアー 金城実さんと闘いの像に会いに行く◆ 8:45 集合◆ 費用: 5000 円 (中高生 3000 円、小学生以下無料)◆ 集合場所: 東京駅丸の内駅南口・工事中の中央郵便局わき◆ 成田プロジェクト◆ 申し込み先: TEL 03-3818-1835、FAX 03-3818-9312 (ペンの会)

▶ 11/11 (金) たそがれの経産省キャンドル包囲「人間の鎖」アクション◆ 18:00~19:30◆ 経済産業省本館正門前集合 (東京メトロ霞ヶ関駅下車)◆ 11・11~12・11 再稼働反対! 全国アクション実行委員会

▶ 11/12 (土) 命に国境はない——福島とイラクの今を語る◆ 18:30◆ お話: 高遠奈穂子◆ 800 円◆ 三鷹市市民協働センター (JR 三鷹駅南口下車)◆ 共催: うちなん

ちゅの怒りとともに! 三多摩市民の会、アンポをつぶせ! ちようちんデモの会、福島原発の「廃炉」を求める有志の会、すぺーす・はちのこ有志 (本文 2 ページ参照)

■ アマゾンに石油に沈めないために一エクアドル・ヤスニ ITT の挑戦とグローバル市民社会◆ 14:00◆ 講演: エクアドル大使館◆ 上智大学図書館 L-821 (JR 中央線、東京メトロ四谷駅下車)◆ 主催: 上智大学グローバル・コンサーン研究所、協力: ヤスニ ITT イニシアティブ◆ 連絡窓口: TEL&FAX 042-498-3126

■ 「ぼくらは見た」上映&岡真理さんのお話◆ 上映 18:30、岡真理さんのお話◆ 1000 円◆ ひとまち交流館京都第 5 会議室 (京阪清水五条駅、地下鉄烏丸五条駅下車) ピースムーブメント実行委員会 (090-2359-9278)

▶ 11/13 (日) ウラン兵器禁止を求める国際行動デー集会◆ 13:30◆ 豊田直己、山崎久隆◆ 1000 円◆ スペースたんぼぼ (JR 総武線水道橋駅下車)◆ 劣化ウラン兵器禁止・市民ネットワーク (本文 2 ページ参照)

▶ 11/18 (金) 第6回役立つ反原発基本講座「PPS から反原発を考える」電力会社の電気は買わない◆ 18:00 開場◆ 大沢豊 (立川市議)、布施哲也 (反原発議員・市民連盟)◆ スペースたんぼぼ (JR 総武線水道橋駅下車)◆ 反原発自治体議員・市民連盟

▶ 11/20 (日) 講演: チェルノブイリと福島◆ 広河隆一、黒部信一◆ 13:30 開場◆ 資料代 500 円◆ 明治大学リバティーホール 1001 教室 (JR 中央線・総武線、東京メトロ御茶ノ水駅下車) チェルノブイリ子ども基金/現代史研究会

■ 3・11 後の暮らしと子どもたちの未来を考えるフォーラム みんなでつくろう! 緑の党◆ 12:30 開場◆ 基調提言、パネルディスカッション「経済成長神話にサヨナラ」「サヨナラおまかせ民主主義」◆ 参加費 1000 円◆ YMC A ジュニア青少年センター (地下ホール) (JR 総武線水道橋駅下車)◆ みどりの未来